ふくろう新聞

＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/

4月13日の地震で、淡路ふくろうの郷では、事務所前の廊下が盛り上がったり、食器が割れたり、本棚が倒れたり、ガスやエレベーターが一時使用できないなどの被害がありました。
幸い入居者、職員ともに怪我もなく、一安心です。18年前の阪神大震災と今回の地震を教訓に、防災への意識を高め、災害発生時の動きについてさらに準備して行きたいです。

勝楽 佐代子さん　人生を語る　4月13日 東京大田区

4月13日早朝、淡路島を震源地とした突然の揺れに戸惑いながらも、東京大田区ろう協・サークル羽田主催の学習会に出発しました。「ろう者が集える場所」を大田区に、との思いを伝えるため、淡路ふくろうの郷の入居者5名、竹原相談員、北野援助員、淡路聴覚障害者センター辻の8名です。

参加者から大田区にも創ってゆくために、是非、淡路ふくろうの郷を訪れたいとの声がありました。

▲ろうあ者もみなさんと共に暮らせる大田区にと、これまでの人生体験を語る勝楽佐代子さん

参加者の感想より抜粋

▽勝楽さんなどが壮絶な、身を裂かれるようなつらい経験をしてきたのだと胸が痛くなりました。淡路ふくろうの郷の皆さんは、深い情と温かみがあって、素晴らしい方々です。そんな方々を締め出すような社会のしくみや人々には、納得がいきません。生活や人生に寄り添って考えていける社会になってほしいと希望します。

▽実際に本人からお聞きしてみると、冊子で読んだのとでは受ける感動が全く違いました。当事者からお話をお伺いする機会をいただいて本当に良かったです。

▽人生の先輩であり、いつか少しでも何かのお役に立てる日が来るまで、今の自分に出来ることを、いつも精一杯していきたいと思います。

▽入居者の中で圧巻は、98歳の土居さん、ご一行様のなかで一番元気でした。自分で工夫して作ったという黒い傘の杖を持った姿は、まるでシンデレラに出てくる魔法使いのおばあさんのようでした。おしゃべり好きで、お会いした直後から続いた弾丸トークには驚きました。でも、98歳まで元気でいられるのは、こういうことなんだと妙に納得もしました。機会があれば淡路ふくろうの郷を訪問したいです。

「スカイツリー」堪能

翌14日は前田さんの強い希望で計画された「東京スカイツリー見学」です。昨日からお世話になっている大田区手話サークルから5名が案内に来て下さり、計13名で貸切ワゴンタクシーに乗りにぎやかな見学です。

入口から見上げても全く全貌が見えず、すさまじい高さです。350mの展望デッキに到着するとたくさんの人々が眼下に広がる絶景を眺めていました。はるか遠くまで広がる街並みに「すごい」「きれい」と喜んでおられました。さらに上の450mの展望回廊から見ると、街が豆粒ほどです。勝楽さんは「OKサイン」を連発して喜び、絶景を堪能されていました。

その後、両手いっぱいのお土産を買っていた前田さん、一目惚れした帽子を購入し、笑顔の北川さん、皆さん思い思いに楽しんでおられました。あっという間に飛行機の時間が迫り、見送りに来て下さった手話サークルの方々と別れを惜しみながら帰路につきました。

大田区ろう協・羽田サークルの皆さまのあたたかな心づかいが、私たちだけでなく、大田区の高齢ろう者の為にも孤独をなくすきっかけとなったことがうれしいです。　（生活援助員：北野）

▲羽田サークル・大田区ろう協の皆さんがつきっきりで案内して下さいました

故郷京都へ！井上知子さん10年ぶりのお墓参り

4月20日(土)に井上知子様と姪様と一緒に京都へお墓参りに行きました。車椅子ではなく、姪御様と一緒に座席にゆったり座っていただき、会話を楽しまれていました。高速道路を走っていると、知子さんが「もう京都か?」と何度も繰り返して聞かれ、京都へ着くのがとても待ち遠しい様子でした。

久しぶりの再会に感無量

2時間半程で目的の金戒光明寺に到着しました。そこでご家族と待ち合わせし、妹さん、弟さん家族が集まってくださいました。妹さんは遠方におられるため、なかなか会うことができず、久しぶりの再会にお互い感無量で固い握手を交わしておられました。

みんなの顔を見て1人ひとり名前を呼び、「元気にしてるか?」と声を掛け合われていました。お墓の近くまで車で行き、そこから車椅子に乗り、みんなで協力して持ち上げながら、お墓の目の前まで井上さんとご一緒しました。約10年ぶりに墓前に参ることが出来ました。

お墓参りを終え、ご家族と「お互いに元気でいようね。」と約束してお別れしました。

その後、知子さんが前に住んでいた家を見に行きました。家の前に車を停める事が出来ず、車から見ただけですが、帰ってきたと実感されたようでした。平安神宮の真っ赤な建物が見えて「京都！」と改めて京都に来たことを確認しておられました。

帰り道の車内では、色々な思い出を姪御さんとずっと話されていました。

ご家族の皆様、ご協力ありがとうございました。

▶10年ぶりにお墓参りする井上様

4日後に急なお別れ

残念ながらその4日後に井上様は永眠されました。

ずっと「京都に帰りたい」とおっしゃられていたので、最期に京都へ行き、ご家族と一緒にお墓参りできて本当に良かったと思いました。

ご冥福を心よりお祈りいたします。

（生活援助員…田中）

▶ご家族と本堂の前で

～4月25日　お別れ会での職員からお別れのことば～

優しさと思いやりの心を教わる

私は3年前に淡路ふくろうで働き、初めて井上さんの担当をさせていただきました。昨日井上さんのご逝去の知らせを受け、大変驚き、悲しく寂しい思いでいっぱいです。ご家族の悲しみを思うと、本当に心が痛みます。

井上さんと過ごした思い出をお話ししたいと思います。

相手を気遣う井上さんの姿

私が新人でまだ仕事にも慣れていない時、井上さんの就寝介助をしていた私の身体を心配して下さったことを今でもはっきり覚えています。井上さんもふくろうに入られたばかりで、環境に慣れるのも大変だったのに、私のことまで気遣って下さり、本当に嬉しく励みになりました。

また、入居者さんの体調が悪く、寝込んでいて、リビングにいない時に、「ここに座っていた人はどうしたの?」と心配して聞いて下さったり、入居者さんが車椅子の使用に慣れていなくて困っている時には、井上さんが優しく教えてあげることもありました。井上さんの優しさと思いやりの言葉にいつも力と元気をいただき、本当に感謝しています。それから少しずつ井上さんから声を掛けて下さるようになり、井上さんとの距離が縮まったことがとても嬉しかったです。

また入居者さんとの関わりを持ち始め、行事なども一緒に参加されるようになり、楽しそうな姿や沢山の笑顔を見れたり、新たな発見が増えてきました。

一緒に過ごした時間が宝物

井上さんは「自分でできることはやりたい、動きたい」という気持ちが強く、日常生活の中でのリハビリを頑張っておられるなあと日々感じていました。そして、何よりご家族の愛情を感じ、毎日を過ごされていたのだと思います。面会に来て下さり会えることが楽しみで、生きがいの一つだったのではないかなと思います。

寄贈していただいた手作りのステンドグラスは本当に素敵で、ステンドグラスを通して差し込む光がとても綺麗で、私たちも穏やかな気持ちにさせてくれます。

仕事を始めたばかりの私に、たくさんの優しさと思いやりの心を教えて下さり、励まして下さった井上さんと過ごした時間は私の大切な宝物です。

本当にありがとうございました。82年間本当にお疲れ様でした。どうぞ安らかにお眠りください。

（生活援助員…石川）

優しい笑顔でみんなに元気を…
～新居文男さんを偲んで～

お母様の花子さんと（2010年10月）

平成25年3月20日、淡路ふくろうの郷の入居者、新居文男さんがご逝去されました。

文男さんはお母様の花子さんと一緒に生活されていました。

新居文男さんといえばパッと明るい満面の笑みを思い出します。挨拶をするといつも笑顔で応えて下さり、職員に元気を与えて下さいました。一緒に入居されているお母様の花子さんとお話をされる時は、照れくささもあるのか恥ずかしそうな表情をされていましたが、お母様の手を握ったり体をさすってくれたりと優しい一面を見せてくれ、見ている入居者や職員を温かい気持ちにさせて下さいました。

▲書道講座には毎回参加されていました

花子さんはそんな優しい文男様のことをいつも気に掛けておられました。

64歳のお誕生日会をした時、バースデーちらし寿司を作り、ろうそくの火を嬉しそうに吹き消されたことが印象に残っています。親子二人で写真も撮り、とても喜ばれていました。

天国でも文男さんの優しい笑顔でみんなに元気を与えてくれているのでしょう。

新居文男様のご冥福をお祈りします。

（生活援助員…谷口愛）

手話での環境で寛いでいます
～花木ユニット兵頭美恵子さん～

▲▼料理は手慣れたものです・・・

兵頭美恵子さんは愛媛県生まれの81歳です。2月13日に愛媛県八幡浜市から淡路ふくろうの郷に入居されました。

入居されたばかりの時は環境に慣れていないためか、よく「愛媛県に帰りたい、愛媛の家がいい」とおっしゃっていました。

しかし、周りの入居者とともに暮らし、手話でコミュニケーションしている環境の中で、次第に慣れてこられました。

朝食後、鞄をもち事務所とユニット内を往復しながら散歩や職員と朝の体操をするのが日課となっています。

また、天気がよいときは眺めのいいエレベーター前のテラスで日向ぼっこしながらおしゃべりをされています。

先日、愛媛県での生活の様子をお聞きしたところ、「主人が頑張って働いて貯金をしていた。このタンスは主人に買ってもらった」など、ご主人への感謝のお話ばかりでした。それほどご主人を尊敬され、大切にされてきたのだなあと感じました。

（花木ユニットリーダー：足立）

ふくろう大学回想法～自分の想いを語る～

平成23年度より開講。兵庫教育大学の鳥越先生や甲斐更紗さん、平松弘子さん等の協力を得ています。本年は第2金曜日に実施。

4月12日に回想法がありました。

今回のテーマは「昔の服」。

入居者さんから自分の事について熱く語っていただきました。

戦争の時は、白い服は敵機から目立つから暗い服を着ていたとか、生活の為に服を縫って働いていたなど、いろんな話を聞く事が出来ました。

今回から初めて回想法の担当になりました。入居者さんの辛かった想い、楽しかった想い、もっと知りたいと思いました。これからもいろんな思い出など、みんなで話し合っていこうと思います。

（生活援助員：宮﨑）

おのころの家

〒656-0025
洲本市本町３丁目 1-10
清水マンション 1F
TEL・FAX　0799-26-0956

この程発表された施設連絡協議会の「ろう重複障害者の支援に関する調査報告書」による「高齢化の対応に関する課題と提言」の中に、地域に在住する高齢聴覚障害者が気軽に集い、社会参加の継続が図れるよう、広域で利用できる地域活動支援センターの整備を促進するとあります。

しかし、現在の淡路におけるデイサービスセンターでは、コミュニケーションがとれず、利用しても孤立した状態となっているので、都道府県内に広域で利用できる、聴覚障害者を対象とした地域活動支援センターの設置が必要ではないでしょうか。

（管理者　橋詰）

烏骨鶏（うこっけい）育てと草刈り名人（75歳）

土手(どて)武雄さんは若いころ、船乗りをされていて、船のエンジンの音の影響で聴力が弱くなったそうです。

おのころには、平成19年9月1日より週3日利用されています。淡路ふくろうの郷の清掃業務では、草刈り機を使って建物の廻り広い場所もあっという間にきれいになります。斜面もあるし、石ころ地もあるし、安全には気を付けて作業してほしいです。

▲土手さん（左）おのころ島神社で

巧みな身振りサインで

コミュニケーション方法は、補聴器をつけておられれば、普通に会話ができます。一緒に作業されている人は、ろうの人ですが、簡単な手話と巧みな身振りで合図を交わし合っています。

家から少し離れたところで「烏骨鶏」を飼育されています。昔は、卵を大阪の方にも出荷販売していたそうですが、今はほとんどが自宅用となっているそうです。鳥が年老いてくると、卵から雛をかえし育てて、卵を産むようになるまでにするそうです。根気のいることだと思いますが、すばらしいですね。

土手さんの元気の源は、烏骨鶏のたまごでしょうか。

また、おのころの家の仕事が終わった後には、もう1つ楽しみにされていることがあります。洲本市内にあるミニボートピア洲本やパチンコに行くことです。1日いくらと決めて、それ以上はしないそうです。帰りには、イオンによって奥さんに頼まれた買い物をして、帰られます。奥さん思いの土手さんです。

（職業指導員　藤本）

▲淡路ふくろうの郷外周の草刈り

おのころ屋

〒656-0025
洲本市本町７丁目 3-41
営業日時：月～金　9:00～18:00
TEL・FAX　0799-22-6133

「レトロなまち歩き」に参加して

4月27・28日

▲洲本レトロこみち（本町）

洲本に大型量販店ができる以前の中心街で「レトロなまち歩き」が開催されました。4月27日28日の2日間、とても良いお天気に恵まれて1万人以上の人で賑わいました。

クッキーは1週間前から準備してコンテナ4箱にぎっしりと詰まりました。パンは当日の朝焼いたのを、次々とみんなで交互にレトロなまち歩き会場（洲本市栄町2丁目～山手2丁目）まで運びました。

パンはすぐに完売

おのころ屋の販売ブースはちょっとメイン通路から離れていたのですが、心配する事も無く、パンはすぐに完売しました。クッキーも翌日の分まで完売してしまい売るものが無くなる嬉しい悲鳴でした。

2日目はパンだけの販売になりましたが、予定150個が昼には完売したため、午後はのんびりと会場を見て楽しみ、おのころの家の皆さんが作った手作り小物の販売をしました。サークル2名とおのころ屋スタッフ(6名)たちもあちらこちらで買い物をしたり、レトロなまち歩きを楽しんだようです。次回も頑張って出店し、地域にとけこんでいきたいと思います。

（職業指導員　岡本）

▼第3回城下町洲本　レトロなまち歩きチラシ

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

見つめよう自分の健康

社会生活教室（5月6日）

「健康」をテーマにあわじ花さじき、のじまスコーラを会場に、淡路ふくろうの郷・定田看護師、齋藤言語聴覚士に協力いただき、社会生活教室を開催、総勢46名の参加でした。

花さじきでポピーがさわやかな風に揺れる中、軽く身体を動かし散策を楽しみました。

次に、のじまスコーラへ移動し、オーナーから開設の経過を聞きました。その後、齋藤言語聴覚士から嚥下の大切さについてのお話と体操を行ったあと、イタリア料理を堪能しました。

▲好天に恵まれ、満開の花を楽しみながら、久しぶりに体を動かしました

暴飲・暴食で体重 100 キロ、数年前意識不明で倒れ、頭を 10 針縫う怪我を。以後酒、タバコを止め、今は体重 70 キロ代と話される佐藤さん

県病の栄養指導を受け、食事量を量り、グラフに記入、体型もスッキリしたと語る打越さん

失敗体験から学んで・・・

食後はダイエットに成功した打越さん、体重増で数年前に意識不明になった佐藤さんから健康についての経験談を聞き、グループで自分たちが日頃気を付けていることの話し、発表し合いました。

食事量や肉より魚を多く摂ることを考えている人は多くいますが、運動を心がけている人は少なく、また住民健診を受けていない人も多くいました。

定田看護師より、①医師の指示は素直に聞き、実行すること。②健康は若い時から気を付ける。特に高齢になると誤嚥性肺炎になる心配があるため、日常的に誤嚥を防ぐカミカミ運動をすることが大事です。との助言を受けました。（吉川）

防災の大事さ　災害対策を早急に

4月13日早朝、淡路島を震源地として地震が発生し、淡路市で最大となる震度6弱、南あわじ市5強、洲本市5弱を観測しました。

センターとして地震発生直後に動けなかった反省も含めて、15日～17日にわたって一人暮らし高齢者を中心に19件の家庭訪問等を行い被害状況の確認を行いました。人的被害はなかったものの、家屋の壁の脱落、塀のひび割れ等6件の被害がありました。被害の大きかった家については役所に連絡したり罹災証明の手続きについて説明するなどの支援をしました。

被災した方からは、「昨年の社会生活教室で災害時の対応について学べたことが役立ち安心できた」との話がありました。

行政との連携、体制作りを

地震発生後、行政が要援護者にどのように対応したかを情報交換する中で、センター利用者が災害時要援護者台帳に記載されているかどうか、またそれ以外の聴覚障害者の状況も把握したいので、情報開示してほしいことや、災害発生時、支援に回るとされている民生委員さんに聴覚障害者について理解を深めるための研修機会を作ってもらう等の依頼を行いました。

防災マニュアルの作成を

以前より淡路聴力障害者協会、手話サークルとも防災マニュアルの必要性を話合いながらも具体化には至っていませんでした。これを機に早急に防災体制について検討を進めたいと考えています。（辻）

のじまスコーラについて
（スコーラとはイタリア語で学校のこと）

廃校となった「旧野島小学校」を人材派遣会社パソナが淡路市より譲渡され、改装し、レストランや農業経営を行っている。階段が多く、また２階にトイレがないなど、高齢者・障害者には移動が大変ですが、そこは社員さんの手厚い気配りがあり、まさに心のバリアフリーがなされていると感じました。

お知らせ

5月30（木）10:30～17:00
巡回相談：南あわじ市緑地区
午前：緑市民センター　午後：家庭訪問

6月22日（金）10:00～17:00
～こころのケア相談～
1人で悩まずに話にきてみませんか？

お問合わせはセンターまで
TEL：0799-24-3850
FAX：0799-26-1175

続・地域を語る

第53号　総動員法と乙女座

支那事変当初の軍事工業動員法は、事変第二年目を迎えた昭和十三年に於ては、一般情勢によりすれば、稍々時代に適応せざる所ありて、軍需の充足のみならず国民生活の確保、一般経済の円滑なる運用を期する点にも又支障ありとて綜合的単一法を制定する要ありとして、一月二十六日戦前又は事変に於いて国家総動員法の統制を受くる部門として総動員物資、総動員業務、帝国臣民の徴用、労働争議、輸出入、其他会社、銀行、新聞、出版等百般の事業に対して、政府は時に命令する権利を握り、それに依って帝国の大目的貫徹のため官民一致の実を挙ぐることになったのである。

この為に入手は増々不足あり、戦力増強の一端を担う人形座の悩は深刻である。

従来の淡路人形浄瑠璃芝居にては、一行三十四五名が必要で、荷物の運搬、旅費、宿泊、食費等にて多額を要する為に、これら経費の節減を計って、手軽るに慰問、慰安観賞が出来るように、しかも応召、徴用にて男手の不足もあり、婦女子にても容易に扱える操人形をと考慮ありて、小型人形の製作に着手ありて成功あり、一〇名以内にても操り、職場、学校、寺院、個人宅等にても設備にも時間もかからず、用具の運搬も自転車の荷台にても結構間に会う軽便さの為に、経費もかからず女学生等の婦女子にても簡単に操ることが出来たもので、乙女座と名づけて手軽に各地の慰安に出掛け、戦力増強の一端に協力する事が出来た。

役員
　理事　岡田貞一、上谷　猛
　　　　島　俊一、林　章義
　理事長　中野篤一郎

※中川原村史より
次回は、人形芝居の文化映画

力強い地域の応援団
淡路ふくろうの郷地域交流会が総会

4月21日

4月21日、平成25年度淡路ふくろうの郷地域交流会総会が開催され、19名の方が出席されました。

北岡会長から、13日早朝の地震による地域の被害等の報告と労いのあいさつ。大矢施設長から、数年間で地域交流会の役員のご逝去に接し、あらためて淡路ふくろうの郷への支援協力、業績に感謝の意が表されました。また、地震や災害が続き心休まることがないが、中川原ふれあいセンター事業の充実で心休まる場となるようがんばりたい、との挨拶がありました。

事務局より、平成24年度の事業報告と25年度の事業計画の提案がされました。事業報告では、4年目を向かえたそうめん流しや案山子作り、そして、みはる会の踊りと太鼓の交流や大根の寄贈による「おでんパーティー」の実施など新しい取り組みの報告がされ、おでんパーティーは25年度も実施することになりました。また、ふくろう新聞に連続掲載している「続・地域を語る」は平成26年3月末で終了したいとの提案がありました。

会員から、中川原ふれあいセンターに対し、福祉事業の実施や収益を考えた事業の展開が必要ではないか等のご意見が出されました。また、毎月の淡路ふくろうの郷への支援を継続することも確認されました。

平成25年度役員は、会長(北岡肇様)、副会長(金坂明久様・木村泰生様)、委員(井関義和様・沖田久雄様)で全員再任されました。

総会に参加し、淡路ふくろうの郷の力強い応援団である地域交流会の多大な力があり、今の淡路ふくろうの郷があることを実感した総会でした。

(総務部:中村)

お知らせ

法人・淡路ふくろうの郷のホームページが新しくなります
(6月1日より)

ホームページ　http://hyoufuku.main.jp/
メールアドレス　info@hyoufuku.main.jp

中川原ふれあいセンター 開所一周年のつどい(仮)

とき:7月 13 日(土)
場所:旧中川原中学校体育館

時間など詳細については6月号でおしらせ致します。また、つどい終了後、淡路ふくろうの郷にて BBQ を行います。引続いてのご参加をお願いします。

作品紹介
ふくろう大学 書道講座にて

▶井上知子さん（82 歳）
逝去される前日の朝。
大きな名前入りの作品でした。